

金沢国際がん生物学シンポジウムを開催

2014年11月4日

11月4日(火)、金沢東急ホテルにおいて、金沢大学のみならず北陸におけるがんの基礎的ならびに臨床的研究の一層の発展を図ることを目的とし、毎年、金沢国際がん生物学研究会及びがん進展制御研究所が主催となって行っている「金沢国際がん生物学シンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムでは、米国、英国、カナダを含む国内外のがん研究領域をリードする研究者をシンポジストとして迎え、196人が参加し、「肺がん」「白血病」「エピジェネティクス」「幹細胞」「肝がん」をテーマに先端的ながん研究に関する最新の研究成果報告と、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

シンポジウムでは、英国ウェルカム・トラスト・サンガー研究所のPentao Liu博士には、「発生とがんにおける転写因子BCL11A, BCL11Bの役割」について、米国国立がん研究所のXin Wei Wang博士には、「肝がんの不均一性理解に向けたマルチオミクス研究」について、最新の知見をご講演いただきました。また、特別講演では、カナダ・トロント大学のTak W.Mak博士には「将来の標的抗がん治療」と題して、これまでのがん研究を俯瞰した総括から、将来のがん研究発展の方向性について示され、大変有意義かつ興味深い、参加者の心に残る講演をして頂きました。

なお、本シンポジウムは大学院医学系研究科及び医薬保健学総合研究科の授業科目として認定されており、同研究科の大学院生も69人が参加した他、学外からの研究者も数多く参加し、研究者間の交流と最新のがん研究に対する理解を深める絶好の機会となりました。



シンポジウム会場玄関



開会挨拶：がん進展制御研究所
大島 正伸 所長



がん進展制御研究所
矢野 聖二 教授



国立がんセンターがん研究所
河野 隆志 分野長



がん進展制御研究所
平尾 敦 教授



国立がん研究センターがん研究所
北林 一生 分野長



特別講演
カナダ トロント大学
Tak W Mak 博士



九州大学大学院医学研究科
伊藤 隆司 教授



九州大学大生体防御医学研究所
佐々木裕之 教授



東京医科歯科大学医学研究所
西村 栄美 教授



英国 ウェルカムトラストサンガー研究所
Pentao Liu 博士



金沢大学附属病院
山下 太郎 総合診療部 副部長



米国 国立がん研究所
Xin W Wang 博士



閉会挨拶
向 智里 金沢大学理事(総括・改革・研究・財務担当)



シンポジウム終了後